

リーディングDXスクール事業【実践事例】

天草市立本渡南小学校（熊本県）【指定校】

【取組内容①】 教科の理論を学ぶ

国語科、算数科、社会科の
理論をスライドで説明＋共有

「問い」を立てる練習について

「わたしの問い」とは・・・
一人一人の児童が自分に合った
課題を設定する
個人のめあてが「わたしの問い」

どのように「わたしの問い」を立てるのか

「私の問い」を立てるというのは、
何でもいから問いを立てるのではない。
教師と児童が、同じゴールを見据えて、
問いを立てることが必要。

ステップ② 児童と「問い」を立てる練習
問いは何のために立てるのか

問いを立てる目的は、生涯を通して主体的に学び続けること
ができる人として成長する基礎となる「問い」を立て、
それを解決していくことで「力」を育てるためです。

ステップ② 児童と「問い」を立てる練習
どうすれば子どもたちが自分の「問い」を立てる
ようになるのでしょうか？

その場面でどんな力を身に付けさせたいのか、考えおく
こと。
子どもに問いを持たせる際に、教科研究をし、教師自身が
たくさん問いを問いしておくこと。
教師自身が問いを立て、例としてあげ、選択することから
はじめる。

ステップ② 児童と「問い」を立てる練習
「自分の問い」を立てる練習
「自分の問い」を立てる練習
「自分の問い」を立てる練習

職員による
教科理論の共通理解

主幹教諭による算数の理論共有

指導教諭による国語の理論共有

児童と「問い」を立てる練習

学習のポイントその①「社会の目（見方）」

分類	問い	問い	問い	問い
「知ること」のための問い	「知ること」のための問い	「知ること」のための問い	「知ること」のための問い	「知ること」のための問い
「知ること」のための問い	「知ること」のための問い	「知ること」のための問い	「知ること」のための問い	「知ること」のための問い
「知ること」のための問い	「知ること」のための問い	「知ること」のための問い	「知ること」のための問い	「知ること」のための問い

新しい教科書も、見方・考え方を増かせる
問いの深さ・広さが図られている

学習過程（単元導入などで示す）

学習過程の型（毎時間クラスルーム上で示す）

自分なりのポイントを見つけて、学びの「質」を高め
型を教える

参照しながら自分で学びを進める
→少しずつ情報を減らしていく

児童が主体的に学ぶ中で、教科の本質
に近づいていけるよう、各教科の理論を
教師間で共有し、教師の役割について考
える時間を設定した。

問いの立て方、見方・考え方、学習過
程（課題設定～まとめ・表現）の回し方
の例を共有し、具体的な授業イメージや
教師の手立てについて全職員で考えた。